

よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹、幼少の頃の愛称です。



論語から学ぼう

(記念館玄関案内看板に掲示中)

《 第84号 》 (令和5年度第1号)

本年度もよろしくお祈りします！

よえもんさんが施設の紹介をします。



論語「子罕第九之二十九 書 淵田瑞穂さん

歳寒くして然る後に 松柏の凋むに 後るることを知る

令和5年度が始まりました。職員で協力しながら運営してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

Q1 記念館はどのあたりですか？

A1 道の駅あどがわの東側300mのところにあります。

Q3 藤樹のこと、学べますか？

A3 もちろんです。職員がていねいにお教えします。

Q5 団体でも利用できますか？

A5 大歓迎です。学校や各種団体さんが利用されています。

Q7 お休みはいつですか？

A7 毎週月曜日が休館日です。あと、祝日の翌日が平日の場合はお休みとなります。翌日が土日の場合は閉館日です。

こんな施設ですよ！来てくださいね！

Q2 むすかしそうな施設だけど、説明してもらえますか？

A2 喜んでご説明します。

Q4 職員さんって何人いるのですか？

A4 4人いますよ。みんなやさしくていねいに対応します。

Q6 見学料金を教えてください！

A6 高校生以上は300円です。幼児の方や小中学生は無料です。

Q8 会議やサークルの集まりで使える部屋はあるのですか？

A8 あります。講義室があり、藤樹の学び等に関するサークルさんに1時間500円でお貸ししています。

寒い季節となり、他の木々（広葉樹）の葉は枯れ落ちるからこそ、はじめて松と柏の葉が常に枯れない緑の葉を保っていることがわかります。

人は困難に立ち向かったとき、はじめて真価がわかるということ、寒い季節の中での松と柏の様子に例え、自分の意思を曲げずに努力することを重ね合わせて表現しています。

しかし、私たちは自分の意思をつらぬき努力していても、どうすることもできないことがあります。そんなときは、周りの人に相談して問題を解決してもらいたいと思います。

その1 動物と孝行

『あかぎれ膏葉』のお話に代表される

ように、中江藤樹はしばしば「孝行」と結び付けて語られます。

中国では昔から「孝行」は、人間だけがするものではないと考えられていました。『七つの子』という童謡では、山のカラスが自分の子どもを大切にかわいがる様子が歌われていますが、中国から伝わることわざに、まるでこの歌の続きのような、「カラスに反哺の孝あり」という言葉があります。成長したカラスは、親鳥に口移して食べ物を与えて恩返しをするという意味です。この他に、藤樹も勉強した『礼記』という書物には、カワウソ（獺）が獲った魚を川岸にならべ、親や先祖を祭ってお供えするとあり、『獺祭』（詩や文を作るとき、周囲に参考資料をたくさん広げる）という言葉の由来になっています。

職員だより

先日、作家浅田次郎の「流人放浪記」を読みました。

その中に主人公と無実の罪で松前藩（北海道）に送られる旗本（武士）との間にこんな会話がありました。

「孔子の生きた昔には法がなかった。礼は、そうした時代にひとりひとりがみずから律した徳目（道徳のひとつ）のこと」

「人間が墮落して礼が廃れたから法ができた」人が心得ねばならない当然の道徳が礼、私利私欲で礼を失ったから法という規範（決まり事）が必要になったと書かれています。中江藤樹記念館に勤めさせていただき2年目を迎えました。

「明德を明らかにする」良心を見失わないよう磨きをかけて心を掛けて日々を過ごしたいと思います。

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330